

アジアと女性解放

Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先・横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘112
県住公社147・五島昌子 300円

特集 アジアへの文化侵略

- ★イメージ・メーカー
—美の仲介人その文化装置
- ★美の輸出産業—化粧品・ファッション雑誌
- ★座談会—アジアで生活して
- ★アジアの政治犯
- ★女大学—侵略の芸術・解放の芸術

逐次刊行物

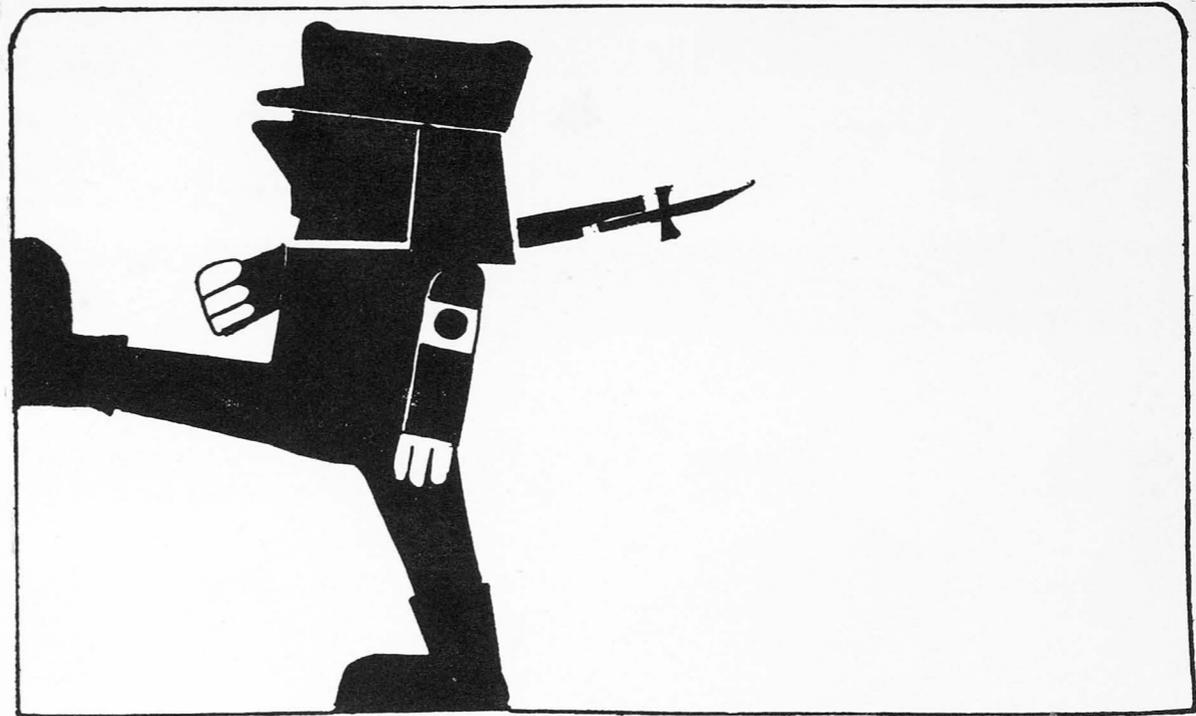
'13.1.22

国立女性教育会館
女性教育情報センター

No.4

1978. 7

女性差別・民族抑圧からの解放をめざして!



タイの雑誌『社会科学評論』黄禍特集より (1975年)

イエロー・ヤンキー・JAPAN

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ——いわゆる第3世界とよばれる国々には、その風土、生活、思想に根ざした文化伝統があった。しかし西欧帝国主義諸国の侵略を受け、植民地や半植民地として支配されてきた。新来の植民者は旧支配者・旧制度を利用・結託し、民衆は二重の桎梏と収奪を受け続けてきた。

アジアの中で、かろうじて植民地化を免れた日本は、幕末の開国以来、富国強兵・殖産興業の崖をかけたのぼり、後発帝国主義国家「イエロー・ヤンキー」になった。

明治以来1世紀にわたって、脱亜入欧の西欧追従の文化路線をとってきた日本は、第2次大戦後はアメリカ帝国主義に従属して、アジアの民族解放運動に敵対し、彼らの血を利用して、高度経済成長をなしとげてきた。総督や軍隊という植民地支配の古典的形態は消滅した。しかしそれらに代わって傀儡政権と結びついた企業が進出し、商社員やセールスマンが入りこむ。

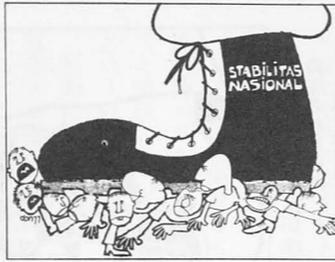
コンクリートの高層住宅に住み、電器製品を並べ、乗用車をもち、ファッションナブルな服装をしてこれこそが幸福な人生であるかのような幻想を与える。こうした西欧文化にとびつき、そのイミテーションをメイド・イン・ジャパンとして、アジア各地に集中豪雨のごとく売りこんでいるのが日本の企業である。

ヴォーグをサルマネした日本のファッション雑誌が、美のイメージをつくり、マックスファクターのかわりに資生堂が、アジアの女をアーリア人種の顔に塗りあげてゆくことにより、莫大な利潤をあげてきている。

「味の素」は、スパイスの国の豊かな香料文化を破壊させた。「ヤマハ」の洋楽器は、アジアの民族音楽を衰退させつつある。それらの火付人としての役割を果たしているのが日本の企業である。

われわれは、近代化を全面的に否定するものではない。西欧文化を仕入れ、それを模倣・加工してアジアに売りつけてきた日本の「近代化」を問うているのである。そこには人権の尊厳や解放の思想は全く欠落している。1世紀にわたって、つねにアジアの反革命勢力と結託してきた日本による、経済侵略の手段としての文化侵略に目を向けよう。

「アジアの女たちの会」



インドネシア・サレン、ハニ、兵年三月五日、国家の安定の名のもとに呻吟する民衆

資本の仕掛人、イメージ・メーカー。それは、より貧しいもののフトコロをならう収奪者だ。女にはロマンティック文化を男にはエロティック文化をあたえて、現実から目をそらせる、たくみな文化の分断政策——文化のアルバイトヘイトである。

人の心を捉える魔術師だ。

イメージ・メーカー

美の仲介商人
その文化装置

ロマンティック文化と エロティック文化

イメージ・メーカーは、美意識をつくり出す資本の尖兵である。

その年の流行の色や形を売出し、去年のものを古ぼけさせてしまうというセールスの工作部隊である。

ロングスカートからショートスカートに、ミニをミディに、マキシに、要するに、それまでのものを使えないゴミにしてしまう。

その工作部隊は、テレビのCMやクレジット販売とともに、人びとの意識を知らず知らずのうちに変え、日常生活から人生全般までを支配する役割を担っている。

イメージ・メーカーは社会の現実をたくみに先取りし、心の欲求不満を商品の購入・消費へと誘導する、

いま 何かが始まる。未来への
バイブレーション

原宿・八角館

イメージ・メーカーは人びとの日常性を破り、人生が変わるような錯覚をおこさせるのだ。

アルファアルファ一星に旅した女は
はるか銀河系の彼方から、一九七
八年の地球の声を聞いた。

クリスチアン・デオール

もはやイメージ・メーカーは地球の外へと誘ってゆく。都会のごみごみとした生活から抜け出て、銀河系へまで連れ出し、そこでいったい何がおこるのか？

地球は きょうも南向き

西武

銀河系や地球が引きあいに出されれば、乏しい財布のこともど吹きとんでしまうのだ。地球が南向きというほど大なる夏がくれば、せめて夏服の一枚もと思ったださやかな夢は、一回りも二回りも膨んでしまう。そしてつい、フィーリングにのせられて、財布のひもをゆるめてしまうのだ。

女の媚態は小道具によって必殺の武器となる

バリー・インタナショナル

女性雑誌のグラビアには、この種の広告が氾濫している。「女の魔性に火をつけるもの」など、いかに演出をして女は、金のある男を惹きつけるかと、女もまた商品であったのだ……。

若い女たちには、恋と結婚のイリ

ユージョンをノある日、ふと、どこかで、すばらしい男性が現れ、彼女の人生を書き変えるであろう「シンデレラ幻想」を若い女たちにふりまくのだ。シンデレラでは魔法使いのおばあさんが、衣装や黄金の馬車をあたえてくれたが、現実では乏しい給料から彼女が月賦で支払わなければならぬのだが……。

幻想と夢は、貧しければ貧しいほど、渴望される。

零細企業で低賃金と苛酷な労働条件に耐えている女たちは、嫁入り衣装の貯えのために、青春をけずるのだ。「職場の花」といわれ、花が枯れば退職させられる女の耳元にささやくのは、結婚幻想のイメージだ。

女たちにはロマンティックな文化を、男にはエロティックな文化をあたえる分断政策が、女にモード雑誌をあたえ、男にはエロ新聞を提供している。

通勤電車の中で男たちが、愛読するスポーツ新聞・芸能新聞は、エロティック幻想にひたれる、現実逃避

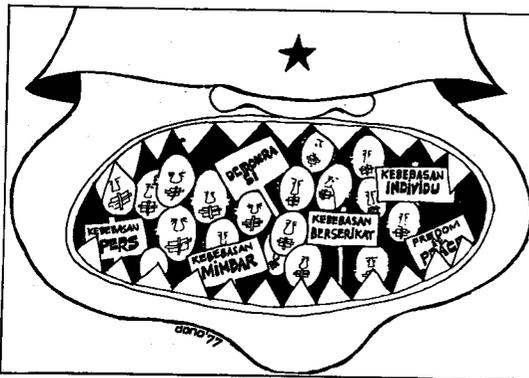
の世界である。

ラブ・サロン「香港」
官能コース 三六五〇円
秘蔵コース 四九〇〇円

女の性はバーゲンセールの商品だ。
キーン観光もいまや「韓国風俗視
察視善旅行」といい変えている。

サロン「処女飛行」銀座支店
—台湾の穴場にご招待—
TEL 25414079

もはや、ちよつとの刺激では感じ



インドネシア「サレネバ」2070年1月5日
抑圧される自由

ないほど、頹廃は深まっている。
最近、東京の国電内にこんな広告
があった。

「遊びでも燃えなくては、一人前の
男とはいえない」
しびれるキャバレー・日の丸

ついに国電の広告も、ここまで落
ちてきたのだ。家畜輸送のような満
員電車で毎日輸送されている男たち
は、頭上の広告にシラけるにちがひ
ない。だが「遊びでも燃えなくては
一人前の男とはいえない」——これ
は遊郭で花ひらいた文化伝統をもつ
日本男子にとって、「男の美意識」を
説得するものなのだろう。

夜の町は、企業幕藩体制の下で生
きる男たちの悲哀を抱きこみ、エロ
ティック文化の花ざかり。美女にか
しずかれ、造花の桜の下でのうたか
たの恋の「ハレム幻想」があつてこ
そ、ストレスも解消できるわけ。

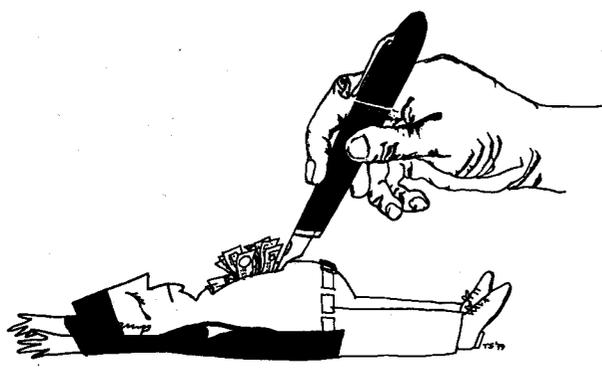
ロマンティック産業やエロティッ
ク産業がなかったとしたら、憤懣は
革命となって、体制にぶつかつたか
も知れない。昭和初年のファシズム
前夜のエログロ時代が思い出される
——それが支配の文化装置だ。

言葉の幻想

日本語名詞を西洋風に言い直すこ

そこで西欧資本にとつて、もつと
も甘い汁が吸える市場は、西洋崇拜
の日本となつている。
ループル美術館から「モナリザ」一
点を持つてきただけで、それを見よ
うと気狂いのようなさわざがほころ
うというのも、日本ならでは……。

新聞社が主催して外国から呼ぶ展
覧会ともなれば、ピカソ展であろう
とエジプト展であろうと、博物館は
満員電車並みの混雑——人いきれに
酔い、人の頭ごしにチャリと絵を見
て、千円も千五百円もするカタログ
を買う人びとの行列。この芸術渴仰
はいったい、どういうことなのか？



インドネシア「サレネバ」より ペンでホールドアップ

音楽会も、ヨーロッパからの「名
演奏家」の来日となれば、五千円の
切符が飛ぶように売れ、音楽会場は
着飾つた「紳士淑女」の社交場とも
なる。ヨーロッパ人にとって日本ほ
どありがたい市場はない。

いつたい私たち日本人は、ヨーロ
ッパの芸術家の出稼ぎ植民地に、い
つまで甘んずるのだろうか。
だが芸術産業の資本家たちは、自
分たちに都合の悪い思想はすべて封
じこんでしまう。芸術の中にある革
命思想、反権力思想は、彼らにとつ
て「危険な毒素」として抜きとるか、
あるいは、もはやその思想が時効に
なり、体制にとって危険でないと思
なした場合は、

食料品には添加物を、芸術には思
想ヌキを——さてこのような食品を
食べ、こんな芸術をあたえられてい
ると、どういう結果になるか。添加
食品で体に故障がおこるように、そ
のような芸術をあたえられてきた人
間は思考力を失い、自らの人生を決
断する力のない「ビューティフルな
フィリングで生きる」奇型と化し
てしまうのだ。

日本が西洋の文化的植民地になる
一方で、日本はアジア諸国への西洋
文化取次店としての利潤をあげてい
るといふことへの抗議が「アジアの
女たちの会」の立場である。(白毛女)

とによつて、イメージが変えられる。
その最たるものが、マンションとか
コーポラスという呼び名である。

マンションとは封建領主の館や大
富豪の邸宅、コーポは官邸をさす。
日本式マンションの住人を訪ねたア
メリカ人はビックリ。これはニュー
ヨークやシカゴのスラムより狭くて
粗悪なひどい住居ではないか。

その上、値段を聞いて二度ビック
リ。分譲価格三千万円といえ、ニ
クソン元大統領のプールつき大邸宅
と同じ値段ではないか！
建設業者の言葉の魔術は、政府の
住宅政策の無能無策ぶりを覆いかく
してしまつてゐる。

幻想的なイマジネーションを描く
のにたくみな日本人は、どぶ川の隣
に建つトリバースайд・ホテルの夜景
を、ハドソン川の夜景と見間違つて
くれる。

腕にオメガの二十万円の時計をは
めれば、時計とともにアップパーラ
スへの夢がひろがる。パーバリーの
レインコートとともに、心はチーム
ズ川のほとりに。

この幻想的日本人を目当てに、現
实的なソロバンをはじいてゐるのは
誰か——日本の女性たちが西洋の高
級品に心を奪われている以上、日本
のメーカーも、これを見逃すはずは
ない。

「レティを着こなせる女性になりた
い。パリジェンヌは囁き合ったとい
う。パリジェンヌに磨きあげられた
本格派のレディス・フォー・マル、レ
ティ。いま、東京ソワールからデビ
ュー」ルイ王朝風家具の前に立つ白
人女性の写真」。

エレガントなパリジェンヌや、ア
クティブなニューヨークの女のムー
ドをちらつかせ、旅行代理店は「女
心」を捉えるのに懸命である。

男たちにはセックスのバーゲン・
セール——ソウルへ、マニラへ、パ
ンコックへと漁色のバック・ツァー
が殺到する

女色を漁るドブネズミの群れと、
グッチのハンドバッグを争って買い
求める女たちの光景に、身の毛がよ
だたないものがあるだろうか。

名画・名曲・名作の製造工場

資本の侵略は芸術に及んでゐる。
もはや今日では芸術は、美術産業、
音楽産業、出版産業、映画産業、舞
台興業産業と化し、世界的規模で商
品の宣伝・販売が行なわれている。
これらの芸術産業で、商品の順位
の一流、二流、三流というランクを
定めるのはまず、西欧資本である。
それらの資本は映画スターをつくる
ように、流行作家や「巨匠」「天才」
を製造する。

うちのカーちゃん満足してます ——労組幹部の女意識

今年の春、来日した仏共産党の
マルシェ書記長が「日本の女性は
奴隷だ」と発言して話題となつた。
そのフランスの国営放送テレビ
が、日本の各地で女性解放運動を
行なつてゐる人々を紹介する番組
を制作するために来日した。出演
者の中には、職場における性差別
の撤廃を求めて訴訟をおこしてい
る若い七人の女性労働者のグルー
プも含まれている。

先頃、必要あつて職場の性差別
の実態を調査してみ、採用段階
における差別は言うにおよばず、
結婚・出産退職、若年定年の差別
制度、賃金、昇進、昇格等にたい
する男女差別が厳然とまかり通つ
ている日本の実情に、マルシェ書
記長の言葉をあらためて思い出した。
さらに驚くのは、圧倒的男性多
数組織である労働組合が、使用者
と組んで、こうした性差別の当事
者となつてゐるケースが相当にあ
ることである。だが、かなりの労
働組合幹部の女性解放にたいする
意識が「うちのカーちゃん満足し
てますよ」というのだから、この

ウィーン随想

ウィーンはこのところ明けても
暮れてもサッカの話。
サッカーをだめといつてゐるん
じゃない、けど、開催地は独裁の
国アルゼンチン、人権がごとごと
くふみにじられてゐるこの国で会
場が提供されるなんて、ヒトラー
のベルリンオリンピックの焼き直
しじゃないか。人殺しがスポーツ
を自己正当化の道具に使う。こん
なこと今に始まつたわけでもない
のにまたまた流されていく人々。
世の中、右も左もまっ暗闇じゃ
あござんせんか。(伊藤直美)

日本で唯一の発展途上国向け女性大衆雑誌が廃刊せざるをえなかったいきさつ

女性雑誌にみる美の転換

東南アジア向け

中途半端な西欧文化中継雑誌

左の写真は東南アジア向け雑誌のページ。東京への誘惑、らしき旅とファッションの企画の一カットだ。ちよつと読みにくいかもしれないが英語、中国語、タイ語が添えてある。この雑誌の編集者は、東南アジア向け女性マスメガ誌として成功するため

彼女たちの興味の対象や、日本の雑誌への要求を絶えず調査し続けていたに違いない。その結果、貴重なページ大のスペースを一カットの写真で取め、背後に新宿の高層ビルを配したのは、非常に象徴的である。「日本の庭園など、いわゆる日本的ムードを満載してもダメだったんですよ、残念ながら。日本文化を研究

しているようなごく一部の女性は別ですが、マスの女性が日本に求めているのは、現代的だというイメージなんです」と苦しみ続けたスタッフの一人は言う。

一九六二年の創刊以来、この雑誌の亜細亜版は、アジア諸国のローカル色を打出す試みもしてきた。日本なら、たとえば皇居、祭りにぎわい、ミフネ……などを誌面に登場させてみた。しかし読者の反応は、はかばかしくなかったという。その結果たどりついた線が、背景はメカニックな都市、暮しはゆとりと西欧風のエキゾティズム、そして登場人物は、あくまでも黄色人種であること、だったのだそう。

イメージと実用性をうまく結びつけるのが雑誌(企業)の成功のカギだが、実はこの雑誌、去年つぶれてしまった。ちなみに、相手国用に編集した輸出女性雑誌はこれが日本で唯一のものだった。日本国内向けの日本語雑誌がそのまま輸出されるケースはあるが「文春」「ミセス」「主婦の友」「主婦と生活」などが、日本人居住者や、日帝支配時代に日本語の教育を受けた世代の人々に読まれている。

廃刊に至った要因はオイルショック

パリに支社をもつ雑誌社は毎月いち早くファッション情報を日本の読者に伝える

日本雑誌に発表したパリの情報を(左)、そのまま編集しなおして東南アジア諸国へ



東南アジアの読者たちが応募するデザインコンテスト

読者の価値観ははたしてどこに

ある程度の部数を確保できたのとはにかくヨーロッパのハイセンスなイメージを盛り込みながらも、実用性においては、アジア人の体型に合わせた服の作り方を、製図入りでいかに解説していたのが強味を發揮していたためと思われる。だから読者からの反応としては、「雑誌を見ながら作った服が友達にうらやましがられた」「自国の雑誌より値段が高いけれどセンスがよいから好き」等、デザイナーや美容師志望の学生や、自称おしゃやれな女子学生か

ら、手紙が続々と寄せられていた。

日本国内での本の市場が、ロンドン・パリ・ニューヨークの買ひもの情報から、京都奈良の伝統美まで、すべて売りものにしてしまう混然とした出版企画を受け容れてしまうののに比して、東南アジアの市場では、次第に伝統の色が消えつつあるのを誌面に読みとることができ。市場の要求と企画とは果してどちらが先行するのか、それは議論の余地少なからぬところだが、ここで一つの材料として、上のデザイン画の写真を見てみよう。昨年のコンクール(私が今いちばん作りたい服)というテーマの当選作を発表したページだ。見

開き左ページのデザイン画がグランプリを獲得した、ホンコンとタイの読者の作品。右ページが金賞で、これはマレーシアとホンコンの読者のもの。審査した編集部側の基準はともかく、応募作品の全般的な傾向として、いったい、どこの国の誰が着ることを想定しているのだろう」と首をかき上げたくなるようなデザインが多くなってきた。誰が誰のために何を志向しているのか? まるで日本の読者が踏み込んだ迷路と同じものを、ここにみるようではないか。

ジニー 林 大木 恭子

ク以後の部数の伸び悩み(最盛期には十萬部以上だったが、数万に下落)もあるが、帝人・資生堂・カネボウなど東南アジア侵出企業が、当初は雑誌広告に依存していたが、他の多様な戦略を駆使するようになったのも一因であろう。いずれにせよ、アジアを意識し続けながらも、異質文化の壁にぶつか

あの手この手のタイアップページ



「ホリデー・イン・トウキョウ」の企画が……



三人の女性への美容インタビュー記事となり、



登場人物はいつのまにか化粧品の宣伝に使われて

化粧品成分表

化粧水		粉おしろい		練おしろい	
原材料名	配合比率%	原材料名	配合比率%	原材料名	配合比率%
グリセリン	6.0	タルク	79.0	二酸化チタン	30.0
アルコール	34.0	亜鉛華	5.0	亜鉛華	20.0
ホウ酸	0.1	ステアリン酸亜鉛	5.0	ステアリン酸亜鉛	5.0
香料	0.1	米デンプン	10.0	カオリン	4.5
精製水	59.8	香料	1.0	グリセリン	10.0
防腐剤	適量	色素	適量	香料	0.5
				精製水	30.0
				色素	適量

「化粧品需給とコスト分析」
化学市場研究所編より

バニシングクリーム		乳 液		口 紅	
原材料名	配合比率%	原材料名	配合比率%	原材料名	配合比率%
ステアリン酸	8.0	鯨ロウ	2.0	ミツロウ	25.0
ステアリルアルコール	6.0	ミツロウ	16.0	カルナバワックス	2.0
ブチルステアレート	8.0	流動パラフィン	46.5	硬化油	3.0
グリセリンモノステアレート	2.0	セチルアルコール	2.0	ラノリン	5.0
プロピレングリコール	10.0	ホウ砂	32.0	ヒマシ油	50.0
水酸化カリウム	0.2	香料	1.0	色素	2.0
精製水	64.8	酸化防止剤及び防腐剤	0.5	香料	2.0
香料	1.0		適量	レーキ	9.0
酸化防止剤及び防腐剤	適量			界面活性剤	2.0

化粧品の輸出額

——トップはシンガポール、二位香港——

化粧品の輸出は、戦後、昭和三三年から始まったが、昭和三五年までは逐年増加の一途をたどった。昭和三六年より韓国への輸出が、昭和三八年以降再び増勢をたどり、昭和四四年には三七億円となり、一

千万ドルを越えたのである。

その後、昭和四五年の輸出額は三八億円で、前年より三・四％増の微増にとどまり、昭和四六年は平価切上げの中で四五億円、前年比一五・五％増と好調に増加したが、昭和四

健康な小麦色の肌には化粧品はいらない

タイ・マレーシアの女たちと日本化粧品

そのときはアジア漁民会議に日本の漁民代表の通訳兼世話係でたまたまバンコクにいた。日本からの国際電話で何か緊急事態でも起こったかと胸をドキドキさせて受話器をとった。電話は「アジアの女たちの会の友人からで、そつちにいる間に、日本の化粧品の東南アジア進出状況を資生堂を中心に調べてこい」ということであった。

私自身はあまり化粧品を使わないので知識も乏しく、あまり適任とは思えないし、時間も乏しくて調査というほどのことはできなかった。バンコク、ペナンで垣間見た印象を記すことにする。



マレーシアの化粧品店にはポスター



マレーシア・ペナン市内の化粧品店には日本製の化粧品がずらりと並んでいる。

漢字で見なれているせいか、キョロキョロしてやっと思付けた。国籍・民族不明のビキニ姿の大柄で小麦色の肌の女性のポスターは、くすんだ感じで、あまり目をひかない。客がいなかったので店員さんに聞いてみた。「タイで生産しているのか」「日本からの輸入品だ」「よく売れる?」「……」返事なし。

マッサージのマニキュアを目にしたので、もらえないか聞いたら、「それ一部しかないから」と断られた。そのうちにマネジャーらしき人が寄ってきて、こわい顔をしたので、そつと立去った。一緒についてきてもらったタイの友人によると、資生堂は他の外国製品と比べてとくに高価ではないとのことだった。

マレーシア・ペナンを訪れた日は日曜日で、まちの普通の店は閉って

七年はそれまで輸出扱いであった琉球が昭和四七年五月一日付で日本に復帰したことにより三億円、昭和四八年は二億五千万円と激減した。しかしながら、昭和四九年はやや回復して二億八千万円、更に昭和五〇年は三億四千万円、そして昭和五一年は四億円、前年比一九・三％増加となった。

仕向地別にみるとシンガポールが八億八、四〇一千万円で全体の二一・五％を占めて一位、続いて香港が八億六、七七一千万円で全体の二一・二％を占め、二位となっており、両者はほぼ拮抗している。

三位以下はアメリカの四億七、五七七千万円（全体の一一・六％）、サウジアラビア三億七、六八二千万円（同九・二％）、タイ二億九、一一五千万円（同七・一％）、クウェイト一億五、八七八千万円（同三・七％）、イタリアインドネシアの順で、以上八カ国に一億円以上輸出されており、全体の八一・〇％を占めている。

次に前年度と比較して輸出増加金額が目立って増加した仕向地はシンガポールの二億七、七三二千万円（四五・七％）増とサウジアラビアの一億八、四六五千万円（九六・一％）増が多く、以下香港九、八四五千万円（二二・八％）増、バハレーン五、四九四千万円（二七・九・八％）増、タイ

いるので、デパートに入ってみた。日本の大きなスーパー・マーケットのような感じの店だった。資生堂は置いてないという。そのかわりにコーセーを勧められた。なるほど、コーセー専用のケースが別にある。日本商品はカネボウもジュジュも置いてあるという。これも客は少なかった。ペナンのひなびた宿の若い子たちは、資生堂という名は聞いたことがあるが、よく知らないという。私の接した人々が限られていたにせよ、バンコクやペナンの人々は、つやのよい小麦色のスベスベした肌で、ベタベタ塗りたい化粧品が入りこむ余地はないようだ。気温が年中二十度を越す熱帯では、洗顔で汗を流すのが最高の化粧法ではなからうか。（山鹿 順子）

吉兵衛さんの企業では女は子どもをつくるだけ!?

資生堂社長発言に抗議する

「今年男ばかり五十人の大卒を採用します」、「子ども以外、ものをつくるのは男の仕事」。今年二月二二日付朝日新聞「ひと欄」で、資生堂の新社長・山本吉兵衛氏はこう語った。日ごろは女性解放などは関係ないと言っている女性たちも「子ども以外……」の発言にはカチツときたらしい。聞く人ごとに「あきれた」「バカ

みたい」との答えが返ってくる。ただこの「ひと欄」に気がなかつた人が多かったのだろうか、あちこちから抗議の声があがるまでには至らなかった。しかし、知ってしまった私たちが黙っていることは、発言内容を認めることになる。「女は家庭、男は仕事」の性別役割分業を肯定し、しかも女性を採用しないのを誇らしげに語

五・三九四千万円（二二・七％）増、インドネシア三、四〇九千万円（四〇・六％）増、アラブ首長国連邦三、〇〇二千万円（四五％）増、アメリカ二、九二二千万円（六・五％）増、イタリア一、五三七千万円（一一・四％）増、北朝鮮一、〇六九千万円（二二・五・四・六％）増の順となっている。

次に品目別にみると、香水・オーデコロンが増加が目立っており、またおしろいとポマード・チック・香油の減少が目につく。

（'78粧界ハンドブック」より）

昭和51年品目別輸出額前年対比表

品目（単位：千円）	昭和51年 1~12月	総額に占める割合%	対前年増減額(△印減)	増減(△印減)
香水・オーデコロン	741,185	18.0	156,058	26.7
化粧品	539,648	13.1	35,818	7.1
おしろい	320,769	7.8	48,174	17.7
化粧水	250,991	6.1	△ 48,451	△ 16.2
乳液	192,525	4.7	41,112	27.2
口紅	190,808	4.6	61,875	48.0
化粧用油	176,630	4.3	28,900	19.6
ヘアトニック	150,710	3.7	46,200	44.2
ポマード・チック	125,053	3.0	△ 42,143	△ 25.2
シャンプー	68,091	1.7	△ 17,432	△ 20.4
美容用化粧品	65,739	1.6	43,105	190.4
ヘアケア	26,488	0.6	813	3.2
その他	1,267,424	30.8	312,689	32.8
合計	4,116,061	100.0	666,718	19.3



メロウブラウンは東南アジアでも流行!? 75シンガポール以上買った人には景品がある。(南洋商報)シンガポール一九七八年五月二十五日の広告



「銀座紅色」がカネボウ口紅のキャッチフレーズ。パリから東京にこの夏登場。人を魅惑するつややかな色(同じ日新聞、同じ日の広告)

マレーシアの政治 犯サイド・ザハリ

「非国民」

「非国民」、と彼らは言った
見るがいい
ここに生ける証言がある
ほんとうにその通りか？
もしも

植民地主義者を破綻せしめ
帝国主義者の陰謀と抗争し
不正を一掃すること……
これを称して非国民と呼ぶなら
その通り、私は非国民だノ
もしも

差別制度と

すべての不正すべての隷属を
墓の下に葬り去り
封建社会を埋葬すること……
これを称して非国民と呼ぶなら
よろしい

もう一度、声を大にして言おう
その通り、
私は非国民だノ 一九六三年

「私は非国民だノ」とうたったサイド・ザハリは一九六三年二月二日逮捕された。後になってこの日はマラヤの人々にとって歴史的な意味をもつようになった。

長い間イギリスの植民地下にあったマラヤは民族解放闘争の結果、まずマラヤ連邦が成立、後一九五九年にはシンガポールにも半自治憲制がしかれた。米英をはじめとするヨーロッパ諸国はこの頃から東南アジアにおける新しい体制づくりを、強要していった。マラヤ連邦、シンガポール島、サバ、サラワク、ブルネイ五邦を一つとするこのマレーシア構想は、形をかえた新植民地主義の実現であり、マラヤの人々の求めるものではなかった。彼らは一致して反対の声をあげた。一九六三年九月、各地での広範な反対運動の渦中、ポルネオを除外してマレーシアは強行成立していったのである。

イギリスによって全権を委託された人民行動党(PAP)を率いるリー・カンユーがニセの社会主義看板をかきめぐりすて民族解放を求めるあらゆる人々を弾圧していったのもこの時期である。バリサン・ソシアル(社会主義戦線、一九六一年結成)など政党指導者、労働組合員、ジャーナリスト、学生を一九六三年二月二日を初めに一斉に逮捕、投獄、その数は百人にのぼった。「冷凍庫作戦」とよばれる左翼封じこめの一斉逮捕はその後も何年かつづき、この弾圧により、進歩的な大衆組織はめっちゃめっちゃに破壊され、あらゆるマスコミ、教育機関、官庁はPAP政権の支配下におかれ、労働組合も御用組合傘下に入った。

サイド・ザハリはまさにこの二月二日まっ先に逮捕された。そしていまだに裁判もなしに十五年間拘留されつづけている。当時「ウツサン・メラユ(マラヤ先鋒報)編集長であったザハリ自身、自分を「英国の



"Nama saya Hinda. Nama emak saya Salmah. Nama bapa saya Said Zahari. Saya sudah berumur 13 tahun. Tapi saya tak merasa dapat chiuman dari bapa, saya tak pernah ditimang oleh bapa. Sebab masa saya lahir bapa sudah ditahan dalam penjara. Bila bapa saya ditempat dia ditahan, saya dengan bapa melalui talipon, kami tak dapat bercakap. Saya mengucapkan berbilang terima kasih-pakchik semua kerana ingat saya, kakak saya, abang saya dan saya."
Terima kasih.

冒頭の日本人検事の論告、被告の貧困と無知に同情をよせる弁護士の弁論、そして自らの運命にも無関心であるかのようにみえる女主人公の姿そして、その背景としての満州の自然描写が印象的であった。満州で幼い頃をすごした私には、この小説のもつ重さはひとかたならぬものがある。馬賊それは愛国者であり、日本軍への協力者とは卑劣漢であったと日本人は知っていたのだろうか。

宋媛熙は一九三〇年の生れだから十五才で解放を、二十才で動乱を迎えた年令である。彼女にはその他、妻子を北に残して単身南に来た大学教授と結婚した女性の、統一をめぐるゆれ動く心理を描く「分断」(一九六七)、四・一九で息子を失い、休戦ラインに近い村で働く女医と若い女性記者の出合いを描いた「血痕」(一九六八)などがある。

日本にも「あるパリ」(一九七〇)で紹介された朴順女(パク・スニョ)の「アイ・ラブ・ユー」(一九六二)は、日帝下の女学生生活を描いた作品である。規則のやかましい官立高女で学ぶ少女たちが、日本人校長のもとで神社清掃や、赤十字看護婦として出征する卒業生の見送りにかり出されて行く中で、「君たちは朝鮮少女だ」といい、「赤十字になど行くな」という若い日本人教師。この

こ入れに対して理解ある批判者」と称している。民衆のエネルギーを進歩的な方向にむけること、与党をできるだけ民主的で平等な体制にもつていかせ、経済的な不平等を是正させることが彼の意図するところであった。が、リー・カンユーPAP政権はこのようにならずかな変革にも敏感で、脅威を感じた。ザハリはこの現実的な小さな理想さえもすてざるをえなかった。六一年、長い間マラヤのジャーナリストと読者がつちかっていたウツサン・メラユが政府の管理下におかれた。彼をはじめとするスタッフ、労働者たちは報道の自由と独立を要求して長期間のストライキに突入した。政府も財閥もそんなに長くは続かないだろうとたかをくくっていたこのストライキは、とうとう百日間も貫徹されたのである。

詩人であり、民族主義者、社会主義者、革命家として一人の市民であるサイド・ザハリは、同時に逮捕された多くの愛国者、リン・ホクシユウ(医師)、ホー・ピヤオ(労働運動家)、リー・ツェートン(議員)、ポー・スーカイ(医師、七四年一時釈放後七六年再逮捕)などとともに、いまだに獄中におかれたままである。令状なしに大臣のサイン一つで無期限に拘留できるという獄中生活は、本人にとっても、家族にとっても、

たえがたい精神的な拷問を意味する。六か月毎に、取調べ室から車のキャノン、警察、ある時は独房に、ある時は拷問に、と居場所をかえさせられる中で、彼はよく詩をかいた。冒頭に紹介した「非国民」も逮捕された直後に作ったものであろう。

妻と子どもたちだけにゆるされていく面会も厚いガラスごしに、会話は電話機を通じてしゃべらなければならぬ。それも全部盗聴されているため獄中の生活にふれると中断されてしまう。

獄につながれてしばらくたった五月、ザハリはわが子の誕生を知った。

自由なき誕生

私は食べることを拒んだ

べつに満ち足りていたわけではない
私はめざめていた

べつに眠くなかったわけではない
私の耳には今も聞こえる

ひとりの赤子の泣き声が
この数か月

孤独のただ中で
深慮の源だったものが

この数時間
いなこの瞬間に

とどめなき激昂へと
私をつきあげる

ついにきた
小さき者の到来を告げる

知らせがきた
私は父親なのだ

自由を奪われ
その世界が

暗い小さな土牢の中に
縮むとも

わが子よ
自由なき世界に

この赤子が長じて十三才になった七六年、クアランプールで行われた人権問題会議で彼女は会衆に訴えた。

「私の名前はリンダ、おかあさんの名前はサルマ。おとうさんの名前はサイド・ザハリ。私はすでに十三才にもなったのに、いまだにおとうさんのキスの味を知らない。私が生まれた時、お父さんは獄にいたからです。獄にいますお父さんに会いに行くときには、ただ電話機を通じて話すだけです。私たちはうちとけて話すことがゆるされないので。」

暗く小さな土牢の中にサイド・ザハリは生きつづける。全ての政治犯とともに、全ての家族とともに、全ての闘うアジアの人とともに、生きることが開いたザハリは妻にいう。「わたしはだいたいぶだ」と。

(佐々木雅子)

戦争の最中になぜ戦争にも行かないのかといぶかる女学生たちは彼が六本指だと噂する。敗戦、日本人難民の群れにまじって南下する彼と再会した少女たちが「先生ノ」とかけよった時、彼は「ぼくはもう君たちの教師ではない」という。はだしの彼の足の指は五本だった。

朴順女も、一九二八年生れ、ソウル大学卒。六・二五で難民の生活を経験している。金乗翼氏が文庫本の解説の中で、彼女の作品はそのまま民族の経験であると語っている。

若いパク・シジョンの作品集「はばたく音」(一九七六)の中には別の日本が登場する。「陶工の娘」(一九七三)で、日本人の母とともに日本へ引揚げた混血の若い女性が、苦しい生活と韓国への郷愁の中から、母のふる里である九州の有田焼の窯元をたずね、陶工であった祖父の血すじの中に、自分の韓国とつながるきずなを見出すという話である。

ことばの勉強のつもりで読んだいくつかの短篇にすぎず、文学を論ずる力も私にはないが、韓国の小説の面白さに取りつかれそうなのが、

(山口明子)



1977年10月19日

第6回 女大学

侵略の芸術・解放の芸術

問題提起
富山妙子 (画家) 高橋悠治 (音楽家)



問題提起
富山妙子

侵略の芸術

アメリカの黒人奴隷の歴史を描いた『ルーツ』が日本でもたいへん評判になっていきます。それは白人アメリカが、自らの犯してきた罪悪と、自らの恥部をえぐり出したことに大きな意味があると思います。

その『ルーツ』が日本にはいつてきてどうかというところ、あなたのルーツを、などと、墓地売出しのコミヤルになったりして、アメリカの黒人差別と同様な、被差別部落や在日朝鮮人の問題に対してテレビが取り組むには、まだ日本では、ほど遠い状態でしょう。

日本は外来文化を受け入れる時、つねに支配者に都合よくスリカエられてしまう——どうしてそんなに歪んでしまうのか、みなさんと一緒に考えたいと思います。

日本で美術学校がはじめてできたのは約百年まえ、一八七六年（明治九年）ですが、工部卿、伊藤博文の手によって、イタリヤから外人教師を招聘して、工部美術学校というの

が設立されました。それは伊藤博文が美術愛好家だったからではなく、日本の文明開化、富国強兵の政策を遂行するためで、株式証券・紙幣の銅版技術、肖像画や、機械・土木・建築の製図などの技術者養成でありました。

伊藤博文はご存知のように、のちに「日韓併合」を強行し、朝鮮の植民地化を行なう、帝国主義の代表的な人物です。そのような血にまみれた侵略者の手で美術学校が発したところに、国家権力と美術とのどす黒い癒着が始まっていたのです。

伊藤博文が西欧を模倣して追いつこうとしていた十九世紀末とは、どんな時代であったかといえますと、西欧列強の帝国主義最盛期でありました。

西欧列強は十九世紀中期から二十世紀初頭にかけて、アフリカ、南太平洋のすべて、アジアの大半を植民地や半植民地にしていました。日本も、もうちよつとこのところで西欧の植民地になるところだったのが、インドの「セポイの乱」や、中国の「太平天国の乱」などがおこったため、列強の力がその鎮圧にまわり、日本にまで力が及ばなかったため、植民地にならないですんだといわれています。

十九世紀は帝国主義国の植民地侵

略のたけなわな時代であったため、一八六七年に開国してまもなく、明治政府はたちまちアジアの侵略者となって、植民地奪取競争に加わり、獅子の分け前にありつこうと思うようになりしました。

伊藤博文はヨーロッパへいつて、ひたすら帝国主義の勉強をしてきたようです。プロシアやロシアの帝政の権威や、民衆の弾圧方法や、軍隊などを模倣して、明治政府をつくりあげ、その一環に工部美術学校もあつたわけです。

美の帝国主義

政府が帝国主義ヨーロッパをお手本に西洋文化を輸入してくるのにくらべ、民衆の側が輸入してくるのは民権思想や、帝国主義と対峙する社会主義思想や、さまざまな解放の思想でした。

十九世紀末には、時代の危機意識と芸術の変革思想とは、深く結びついていました。国家や、家からの解放が主張され、イブセンの『人形の家』が発表されたのも一世紀前です。

この戯曲は、夫から可愛がられ「お前は美しい、わたしのヒバリちゃん」などとよばれていた妻ノラが、ある事件で、自分は夫にとって人形のような存在でしかなかったと知り、人

間として生きようと家を出る、みなさんご承知の戯曲です。

これは男のイブセンが、ノラに託して、芸術家のことを言いたかったのではないかとさえ思われています。芸術家とよばれる人びとの生活は何によって成り立っていたかという点、王侯貴族や金持のパトロンの庇護によってでした。近代とは、そのような権力者の且那の庇護から自立した芸術家の独立宣言です。

且那に可愛がられ「お前の色は美しい、お前の線はみごとだ」といわれる、愛玩物としての芸術ではなく、人間として生きる姿勢そのものが作



抗戦八年木刻選集より

品として結実するわけで、家を出るノラと同じように、芸術家もまた、人間として生きようとすれば、体制からはみ出る。十九世紀の印象派は嘲笑の中から生まれます。

パトロンの庇護から出た芸術家はどうか——餓死するしかない。画家ゴッホがかるうじて絵を描けたのは、弟の助力によりですが、精神病院で自殺するゴッホの悲劇は、何を物語るでしょう。ゴギヤンは、帝国主義の頹廢の色濃いヨーロッパをのがれてタヒチ島へ去り、セザンヌは田舎にこもって、ひたすら自然に向かいあう——この三人の反逆の中から二十世紀のヨーロッパ美術は新しい地平を拓いてゆきます。

西欧の洋画を日本へ受け入れるのは、まず政府留学生の黒田清輝を通じてです。彼の受け入れた印象派は中途半端なアカデミズムと印象派の折衷のようなものでした。黒田清輝を、東京美術学校・西洋画科の指導者として、後進を養成するところに、体制と癒着した日本の近代絵画の出發のあやまりがはじまります。

明治以来、国家のもつとも手厚い庇護を受けたのが美術です。天皇制国家権力という且那が、画家の背後にくっついてしまったのです。

明治の帝室技芸院、帝国芸術院、帝室博物館、帝展というように、美

近代のとらえ方

術の世界は帝国づくめです。政府が主催する展覧会は現在の日展となり、保守勢力の牙城となっています。日展特選から芸術院会員へ、そこでは権威的な天皇制につながる、美の階層序列と権威をつくり出し、官尊民卑、西洋崇拝、アジア蔑視、天皇制美学としての日本美など、牢固たる帝国主義美意識を形成したのでです。

『人形の家』が日本で上演されたのは一九一一年（明治四十四）年だといえます。日本の文学者はイブセンのような小国の作家には重きを置かず、ゲテとか、シエクスピアとか、バルザックとか、大国の大作家を志向しました。

それにくらべて革命前の中国の作家、魯迅が取りあげるヨーロッパは、解放をさぐる、痛みをみちた作品に深い共感をしめています。絵画にしても魯迅がもつとも深い共感をもつたのはケイテ・コールヴィッツのような画家でした。そこに私は、侵略する側である日本人と、侵略をうける側の中国人の、芸術に対して何を求めたかという、大きな相違を感じるのです。

一九二五年に魯迅が北京女子師範学校で講演した「ノラは家を出てど

うなったか」の中の一章を思い出します。

「中国では家を出たノラは、娼婦になるかもの婚家に戻るしかない。目ざめても、行き場のないほど不幸なことはないのだ」と魯迅は言っています。そのころの中国はまったく出口の見当たらない、深い夜の闇にあった。そこで魯迅はこう言っています。「中国では変革がきわめて容易でない。机ひとつ、ストゥヴひとつ取りかえるのですら、血を見なければ治まらない。しかも血を見たところで、動かし取り取りかえたりすることが必ずできるとはかぎらない。非常に大きな鞭が背中をひっぱたいてでもないかぎり、中国は自分では動こうとしない。この鞭は、きつといつかは来ると私は思う。よい悪いは別問題だが、きつと来ずにはいない。」

ところが机ひとつ動かすにも容易でない中国が、革命によって国全体を動かしてしまつた。それにくらべ政府の手で机やストゥヴを新しく取替える日本の社会は、本質的にはなんら変つてはいないのです。

西洋文化の受け入れ方として『人形の家』ひとつ取って考えてみても日本の場合「教養」として読まれたにすぎない。しかし中国では、それを解放の思想として、魯迅は北京

女子師範の女生徒の心に根付くように、解放の種子を植えてきたのです。男である魯迅が、ノラは家を出たときどうなるかを真剣に考えたのは、つねに、より抑圧された者と痛みを分けあう、その思想のあり方からでしょう。

それは中国がアヘン戦争以来、帝国主義列強に国土をふみにじられ、外国勢力と結託した国内の軍閥によって収奪され、上海の外国人租界には「犬と中国人は入るべからず」という立札が立っていたほどの隷属の状況の中で、中国人ほど惨憺たる近代



鈴木満 学徒出陣 (美術手帖 '77 9)

を生きぬいた民族もまれであったでしょう。ヨーロッパの芸術から彼らの受けとめるものは、どうすれば人間が解放されるかという問いからはじまったと思います。

日本の支配者は、ヨーロッパの解放思想の芽を、昭和初年につみとつてしまいました。そして天皇を神とする狂信的な弾圧がはじまり、あらゆる批判を封じこんで、日中戦争へ突入していったわけです。

昭和初年にプロレタリア芸術運動が弾圧されてから、雪崩うつ転向が始まりました。そして逃避した場所が「芸術至上主義」でした。芸術至上主義ともなれば、いっさいの権力や金も拒否したかというところ、そうではなく、政治にかかわらないという表明にすぎないようです。

ファシズムが進行してゆくとき、傍観者だった芸術至上主義者も、戦争になると協力者に変貌してしまいました。そして侵略戦争を鼓舞する立場からの戦争画が大量に描かれ、多くの芸術家が従軍報道班員となつてゆきました。太平洋戦争中に描かれた戦争画は、いったんアメリカに持ち去られ、その後、日本に帰されましたが、これを一堂に見せる要求をしても通らないのが、美術界の状況です。戦争画を描いた戦前の日本の画家・画壇は、本質的にはまったく

女性蔑視のモノキュメントに 反対の声
兵庫県・宝塚大橋のたもとに建設予定の「愛の手の裸婦像」は、男性の手のひらの上で裸婦が虚空に手をさしのべているブロンズ像。直ちに反対の声があがり「宝塚大



橋モノキュメント「愛の手の裸婦像」設置に反対する市民の会を結成、像の設置とりやめを宝塚市長に申入れ、同大橋の上で抗議のピラミッドも行った。「手の上のせら」は差別的慣用語で、男優位・女蔑視の象徴、公共物として設置は不適との理由である。

変わっていないことを物語っています。日本の戦後の出発は、国内の戦争責任を裁いていなかった。もと特務機関員の児玉誉士夫は、中国からカマス一杯の宝石をぶんどって帰り、それを自民党の基金にしたといわれています。

日本の美術界も、戦争画を描いた画家、軍と一緒にたつて画家に戦争画を描くようあつた批評家が指導的な地位について、戦後の画壇が形成されていったのです。その勢力は画商とジャーナリズム、画壇をおさえているので、それに刃向かえば、生活がおびやかされます。戦後、高度経済成長の中で画家や

批評家たちは、こんどは軍ならぬ資本の要求するままに、せつせと絵を描き、一時期の狂気のような美術ブームとなり、ビルやマイホームの裝飾壁掛けとなつたのです。もはや今日では美術は、芸術産業の一環です。絵画はブルジョアジーのサロンや、小市民の応接間に買われて、「この色は美しい、この線はみごとだ」と愛玩されるブードル犬のようなものです。一世紀前のノラが家を出たように、私たち表現者も、国や家を出て、いずこへゆくか、問われるところへきているというのが、現在私たちがぶつかっている課題に思われます。



問題提起 高橋悠治

解放の芸術

解放の芸術ということの意味についてすこし話します。まず解放文化はどこにあるかということ。それは解放闘争の中にある。逆にいえば、芸術だけで解放は成り立たないということ。音楽の解放ということをととえていっている人たちがいるけれども、解放の音楽はそれではない。問題になるのは、解放闘争の中でどういう音楽が生れてくるかということ。全体的な歴史や理論については、適当な本を読んでいただくとして、それほど書かれていないことを言おうと思う。

まず、解放闘争や革命の中で芸術が何をしてきたかについては、ロシア革命以来のいろんな例があるわけ。たとえばロシア革命の中での芸術と政治のあり方と、ドイツ革命が失敗したあと、一九三〇年代始めまでの、ドイツの労働者芸術運動とくらべて、解放芸術のあたらしいかたちが生まれてきたのは中国や朝鮮やベトナムであり、生れつつあるの

は、タイや一時期のチリや、キューバだった。そうした前例から何が日本に生かされるかということを考えるためには、まずその発展をたどつてみる必要があるでしょう。

たとえば中国といえば、革命京劇や毛沢東主席の肖像画を思い浮かべることになりますが、解放芸術が生じた時のかたちは、かなり違います。

一九三〇年代の上海に、ニエアル(聶耳)という人がいました。雲南省の薬屋の息子で、一九三〇年に上海でヴァイオリンを弾きながら「ソ連の友社」という組織に入り、歌を書くようになりつきました。映画の主題歌などをいくつかつくつて、その中には今でも歌われている歌があります。かれは一九三五年に弾圧されて危険になったので、上海をはなれて日本に逃げ、鵜沼海岸で泳いでいるうちに溺れて、二十三歳で死んでしまった。その短い生涯での仕事が、中国の革命歌曲の伝統を作ったといわれています。

かれはどういう風に仕事をしたかというところ、たとえば「新女性の歌」というのがあります。当時の紡績工場の女工は一日三交代で、一組は夜明けに仕事を始めることになりました。その三時か四時頃に交代して工場へ急ぐ女工たちのやってくる道に聶耳

は立って、どういう話をしているか聞くわけ。その話から、どういう生活をしているか、どういう階級感情をもっているのか知ろうとする。それが第一。

第二にリズムですね。はっきりした、特徴のあるリズムを歌の基本におこうとするのです。中国語、したがって中国音楽は、規則的なリズムのりやすい。だから、そのリズムを破ることは、たいへん大事なので、つまり、規則性に対して不規則なものをおぶつける、中国流に言えば、矛盾から創造がはじまる。

聶耳の歌は、リズムからはじまった。リズムにも、労働の種類によつていろいろあります。紡績工場の労働のリズム、港湾労働者の労働、新聞売りの子どもの声のリズム。それらを労働の現場へ行って観察する。

第三には、いろいろな労働歌がある。港湾労働者の場合には、荷を揚げる時の歌があつて、各地方で違うのですが、それらを比較して典型的な表現をとりだしてむすびつける。すると、どの地方にもない港湾労働者の歌ができ、これは同時にどこかで聞いたような歌なのです。それが聶耳の方法でした。に、

延安時代には、洗星海という人がいました。この人もやはり、ヴァイオリンを習つたのです。西洋音楽を

やる場合、ヴァイオリンは、入りやすいのでしょうか。日本でも明治時代に西洋音楽をやろうという人は、まずヴァイオリンを習つた。ピアノはかなり後になるのです。

「鳳仙花」という歌をつくつた朝鮮の作曲家洪蘭波(ホン・ランパ)もヴァイオリンを習つて日本留学までしています。

洗星海は漁師の息子で、貧乏だったので、船員になつてパリへ行きました。屋根裏部屋で作曲して、昼間は大道でヴァイオリンを弾いて生活し、その時に書いた曲を、国立音楽院の教授に送つたのがもとで、奨学金をもらつて学校に入るわけ。六年間パリにいて、上海に帰つて、非常に歓迎を受けました。しかし作品発表会をひらこうとしたところ、上海交響楽団の指揮者がイタリア人で、「中国人の曲をやるくらいなら辞



19 NG

職する」と言つたので、音楽会はやれなかった。

かれは、それからはあちこちの地方を回りながら、音楽運動を続け、一九三八年に、解放区に入つて、延安の魯迅芸術学院の音楽部長になりました。

延安では「黄河大合唱」(四人組打倒以来悪名高くなつた「黄河協奏曲」の原曲)を書いた。合唱曲の方は復権されたわけです。この曲は、声による大きな曲の基本形をつくつたものなわけです。朗読をとり入れて、何曲かの合唱曲をつなげていく、合唱による絵巻みたいなかたちです。

西洋音楽と民族音楽

冨星海は一九四〇年にモスクワへ留学しました。聶耳の場合も同じなのですが、ある程度までいくと、自分の技術の不足を感じる。技術を学ぶためには、日本でも、モスクワでも、どこでも行かなければならないということになります。しかし、これはたいへんな矛盾で、闘争を離れて、一般的な技術は学べるかもしれないが、それをどこかで生かすことができるか。

聶耳は偶然の事故で死んでしまつたし、冨星海は六年間モスクワにいて、病気で死んでしまうのです。

冨星海の後には、かれの弟子にあたる馬可(マコ)という人がいます。「白毛女」という革命歌劇作曲した人たちの一人です。この人たちの頃から、中国の民間音楽、特に秧歌(ヤンゴ)という、農民がやる歌芝居のようなものをとりあげて、それを新しい内容でつくりかえる運動をはじめます。

ここでもいろいろパターンを研究して、そこから典型的なパターンをつくりあげる方法がとられます。それから民謡の節をつくりかえることです。「白毛女」の最初にでくる「北風吹」というかわいらしい歌は、二つの民謡をむすびつけて、つくりかえたものです。だから、親しみやすく聞こえてるでしょう。

民間音楽をつくりかえてゆくやり方に対して、一九四〇年代には大形式の作品を書くことが文化の向上だとする考え方もありました。これはスターリン時代の社会主義リアリズムの方向です。社会主義リアリズムは、十九世紀ロシア芸術が芸術の最高段階だという信仰があつて、音楽ではチャイコフスキー、文学ではトルストイを学ぶ、そこからできるのが「全人民」の芸術だということ、それから芸術物品を制定するのは党、実際には文化官僚にまかされる。中国では一九四〇年代の始めに、

冨星海がモスクワに留学したあと、魯迅芸術学院でやる音楽会には、ヴェルディのアリアや、ベートーヴェンのピアノソナタが主で、そこに中国の歌を一曲だけ入れるというような傾向があつたようです。

これが技術の向上で、労働者や農民にも、文化が分かるようになったということですね。

この傾向はいつもあつて、もう一つの大衆路線とぶつかる。時には一人の作家、一つの作品のなかで、この矛盾の面があらわれることもあります。安定してくると、出来合いの大掛かりなものを求め、それをつくるためには、出来合いのヨーロッパ技術をもつてくる。技術だけでなく、それをささえている思想もそのままうけ入れることになる。これは解放闘争から生まれた文化が、国家権力を握ると、どこでもおこる問題です。

土着とは

解放文化のもう一つの特徴は、いわゆる民族文化から自然発生的に生まれるものではないことです。なぜかという、一つには、民族文化といわれているものが、農民の手で作られているせよ、封建的な支配をうけている文化だから、そのままでは、そこから立ち上がるための武器にはならないということです。

ルス・ソヴァ」という音楽運動の中で行なわれた教会音楽のやり方に似ています。ピグミー族は古い種族で、黒人種とヨーロッパの二重の圧迫を受けて、森のなかに逃げこんだ結果、むかし持っていたたくさんものを失つていてと思います。そこでやつと生きた文化が、いま未開と呼ばれているわけです。だから、民族文化によってヨーロッパを撃退しようという主張は、もともとまちがつた面があります。

最近日本でも、山城組という合唱団が歌っているケチャクというもの



兄弟よ、君の手を貸してくれ
連れ立ってさがしに行こう
「自由」という名の
ささやかなものを
今こそは出で立ちの時
ふさわしいところは此処
戸を開け 外の大地は
これ以上われらを待つてはくれぬ

南アメリカに生きる民衆の嘆き、怒り、歓びを唱うソーサー

があります。これはインドネシアの合唱劇ですね。これはヨーロッパ人が観光芸としてつくりだしたもので、ヨーロッパ資本の現地芸術産業のよなものです。中央アフリカに「ミサ・ルバ」という黒人の教会音楽があります。いわゆるアフリカの音楽でキリスト教のミサをやるのです。これはそこに住んでいたフランス人の女の人が作曲してあたえたものです。このように、いわゆる土着文化は、いいかげんなものです。自立するために土着のものにたよるのは、実はヨーロッパに頼っているようなことにもなります。しかし補完文化としての土着文化は、風俗化と切り離せない。おみやげ品文化で革命をおこすことはできません。

解放の文化

解放の文化を表えるときに一番問題になるのは、敵の文化なのです。すべては、そこから始まるのです。ラテン・アメリカにギターが入ってきたのは、スペインの侵略と同時に、かなり前ですが、ギターを使って抵抗の歌が作られるようになったのは、百年くらい前です。これはスペイン帝国がおとろえて、アメリカと交代する時期なのです。一九九〇年代にアメリカは、フイ

リピンとプエルトリコとキューバを、スペインからとりあげました。そのころ、ラテン・アメリカ文化は生まれたのです。歌も、スペインの楽器であるギターから生まれてきた。これはギターというヨーロッパの楽器を、どのように使い変えるかということだと思えます。変えるためには、まずギターを知らなければいけません。これは西洋を、つまり敵を学ぶものとする仕事です。自分の原理を再発見するのは、そのあとです。

最近のタイの学生たちからはじまった歌も、アメリカの六〇年代の、フォーク・ロックあたりから出発している。タイの大学生は、最上層のエリートですが、二年とたたないうちに、歌は農民と労働者の中にひろがってゆき、そこで変質して、タイ的なものになってゆきました。それはタイ的なものの発見でした。

日本でも、おなじようなことがいえるでしょう。西洋近代を学び、それを批判しながらつくり変えていくうちに、私たちの音楽が生まれるでしょう。それは、いわゆる日本のものではないはずですが、日本のものといわれるのは、封建文化であるだけでなく、侵略主義的、天皇制日本の抑圧者の文化ですから、それにふみにじられたものの発見の方が、新しい解放文化になるでしょう。

そういうしぼられた心をたちきつて自立するためには、外からの視点が必要になります。ほとんどの場合、それは「西洋」で、近代ヨーロッパ文化は解放文化の否定的触媒になります。民族文化といわれるものは自発的なものでなく、西洋がつくつたものである場合があります。

アフリカの部族文化といわれているものには、ヨーロッパ人が入りこんでから、補完文化としてつくられたものがあります。ヨーロッパ人が支配しやすいようにまとめた部族をささえるための文化です。

植民地時代以前のアメリカ音楽とヨーロッパ音楽とは、直接の交流があつたようです。ピグミー族は未開種族と考えられているけれど、ピグミーの音楽文化は高度なものだといわれます。楽器はほとんど持たないが、合唱のやり方はいへん洗練されていて、ヨーロッパ一四世紀の「ア



◀ 抗戦八年木刻選集より

ウイーンのミニコミ誌

日本人がウイーンで月刊8ページB5版の「おJAPAN」を出しています。「日本独自の経済軍事化」「第三世界からの便り」「ジプシーへの差別」など。アジアの女たちの会のこととも紹介して連帯を表明、「アジアと女性解放——私たちの宣言」を全文掲載しています。その他「しぼられた手の折り」上映運動の呼びかけ、富山妙子・黒沼ユリ子両氏の文章ものっています。

講読料は送料共一部二五〇円、年間二五〇〇円、第一勧銀高田馬場支店〇六四一―四九九七四九の利用可能、発行所は ITO NAOMI Mariahilferstr. 49-1-3-21 1060 Wien AUSTRIA

一辺境と底辺の旅一

わたしの解放

富山 妙子著

芸術とは何か 生きるとは!
解放を求める画家の半自伝

筑摩書房 880円

東京都千代田区神田小川町2-8

座談会

アジアの生活とニッポン

——フィリピン・インドネシア・タイ・台湾・韓国に暮らし——

(松本路子)



吉田よし子

主婦 果物研究者
フィリピン在住十二年・一時帰国中

内海 愛子

日本朝鮮研究所員
インドネシアで二年間日本語教師

桜井 恵子

大学講師タイで二年間日本語教師

三宅 清子

旅行社勤務・台湾在住十年

山口 明子

団体職員 七四年、七七年に韓国訪問

松井やより

ジャーナリスト
司会・まとめ

(発言順)

松井 アジアの国々には日本商品があふれ、日系企業の工場が続々と進出しています。これらのモノの輸出をたどると、様々な形の日本文化の輸出をとまっています。

今日は、アジア各国に暮らした経験のある会員の方々に、各国に日本がどんな形で入りこみ、人々の生活や文化にどんな影響を与えているか

話して頂きたいと思います。

まず、人々が日本人について、どんなイメージを持っているかという辺から話して頂けませんか。

日本人のイメージ

フィリピンにおける日本人

吉田 一般的イメージは、工業化の進んだ金持ちというところですが、歴史的段階によって随分違います。

戦前の日本人は、マニラ麻などの栽培に来て、フィリピン女性と結婚し根を下ろしました。みつ豆の上にかき氷をかけたような「ハロハロ」というのは彼らが残した食物で、今ではどこの田舎にもあります。

第二次大戦中の日本軍の残虐行為で、日本のイメージは悪化しました。今でも、お酒が入って抑制がきかない人には気をつけるように言われます。日本軍に夫や父、兄弟を殺された人がいっぱいいますから、日本人になにをするかわからないというんです。

現在は複雑ですね。先程言ったよ

軍に組織されゆくんですが。

第二次大戦中の日本軍政開始後も他のアジア諸国と少し違います。インドネシアでは戦闘がなく、しかも宗主国オランダを追い出したのは日本だという幻想があったためです。もちろんスカルノなど民族独立闘争を担った人たちは、日本の意図を見抜いていました。

日本の兵士は農村出身者が多く、村まで来て農作業をしたり、スモウをしたりとの交流もありました。オランダ統治下の閉鎖的社會が日本軍政で流動性を与えられ、人間扱いされていなかった農民が兵士として訓練され、彼らが独立戦争を闘ったという状況がありました。日本人も六百人ぐらいが帰国せずに参加しています。バンドン郊外のガルトでは、ゲリラ闘争で死んだ日本人と朝鮮人がいて、インドネシア独立の英雄になっ

ています。しかし他方では、泰緬鉄道の建設工事や鉱山労働に、労務者として徴発され、栄養不良やマラリヤで多勢が死んだそうです。米や馬の強制的調達もやられています。

こういう体験が同時平行的にあるため、インドネシア人の心の中で支配者としての日本と、タナカとかマチュムラという固有名詞をもつ日本人のイメージが錯綜していて、親日と

か反日とか、単純に割りきれない。

松井 第三段階は賠償交渉からです

ね。内海 一九五八、九年の賠償交渉で登場するのがデビ・スカルノです。スカルノを追放した六六年世代のデビに対する憎悪はすごい。彼女と賠償交渉の結びつきを知っているし、日本の女が大統領夫人になったことで新生独立国家のプライドを傷つけられもしています。

一九六七年以後の日本資本の導入開始で、味の素の日本、トヨタの日本、コルートの日本と、日本商品によって日本がイメージ化されています。たとえばコルトは小型バスを意味する普通名詞として使われ、ホンダはバンドンの南へ行く路線をあらわすという具合です。

タイにおける日本人

桜井 タイは戦前、あまり重要な拠点ではなかった。第二次大戦中は日本の友好国で、直接ひどい目には会わなかった。しかしビルマ戦線用の米や馬を調達させられたんです。今タイでは男性作家は肅清されて女流が多いんですが、ある有名な女流作家が、かわいがってた馬を日本軍にとられた話を書いています。日本兵が村に来たときのこと憶えていて残酷だというイメージも残っています。

す。

第二次大戦後は早くから、日本の東南アジア進出の最大の拠点になってしまったんです。そのため生活のあらゆる面で、日本商品なしではすまなくなりました。学生たちが一九七二年に日本商品ポイコット運動をやり、日本を帝国主義者としてきびしい目でみていたのは、そのためです。学生たちは、大学の先生とか知識人が日本を批判しながらも日本の援助の分け前にあずかろうとするのにも批判的です。

台湾における日本人

三宅 日本の植民地支配は五十年に亘り、その間たえず反乱がありました。最大の文化侵略、文化破壊は、日本語しか使わず、日本式の名に変えさせて、固有の言語と名を奪ったことでしょうか。皇民化政策で国家神道を強制して、学校や家庭に神棚をつくらせました。教育面では愚民化政策をとって、日本人二十人に對し台湾人一人ぐらいの割合でしか就学させず、その弊害が今も残っています。清朝以来のアヘンやてん足の禁止というプラス面もありましたが。

第二次大戦後、解放を喜んだのも束の間、中国本土を敗走した国民党がひどすぎるので、日本をなつかし

む感情さえ起こりました。それに五十才前後以上の世代は日本語で教育を受け、物の考え方や感情も日本に近いものがあります。しかし国民党政権と一緒に本土から来た外省人はアメリカ志向で、日本を鬼畜視しています。

若い世代の対日感情はまた別です。一九七二年の日中国交回復のときにそれが表面化し、彼らはデモや日本商品不買運動をしました。日本の買春観光客を空港やバーでなぐったりもしました。政府は彼らの鋒先が自分たちにも向かうことを恐れ、鎮圧しました。買春観光以外で目立つのは日本の留学生で、台湾の一流大学に日本でどうしようもない学生が聴講生として留学し、若い人たちの悪評を買っています。

韓国人の日本観

山口 韓国は三十六年間も日本の植民地支配を受けたため、頭では日本に反発しつつも、実生活での影響は強く残っています。四十五才以上の世代は日本語で物考える人も多く、解放後、日本人植民者が残っていた本をむきざり読んだという人もいます。キーセン観光の調査で韓国を訪れたときに会った女性も、日本の本や雑誌を読みたいと言っていました。若い世代は違います。日系企業に

就職するため日本語を習う人もいます。また反日の民主化世代の人で日本語による情報を使って韓国のごとを知ろうと日本語を習う人もいます。

ニッポンの流入とその影響

マスメディアと日本

松井 各国の人々の生活の中に、日本あるいは日本文化はどのように入りこんでいるのでしょうか。マスメディアなど、具体的にどうですか。
桜井 タイでは日本のテレビ番組が相当入っています。アメリカのものも多いでしょう。東南アジア最大の市場ですね。日本の番組は安くて娯楽の質もよいとタイの人は言っていました。国の政策として野放図に入れていく感じでした。

夕方六〜七時の幼児や十代向けの時間帯に放送されるものが多く、「ウルトラマン」が「ジャンボA」のタイトルで高視聴率だったようです。マンガ映画のほか時代劇も入っています。子どもたちがチャンネルを替えてました(笑)。人気番組の出演者は人気があり、森田健作や千葉真一、フォリーブスのファンもいます。音楽はアメリカのポップス一辺倒ですね。
内海 インドネシアではアメリカやヨーロッパの映画が日本のより多いですね。テレビも、字幕も吹替もなく英語のままです。テレビはまだ上

流階層のものだからでしょう。日本の映画で断然人気があるのはカラテです。インドネシアにはカラテに似たシラットというのがあるせいか、カラテ愛好者が多いのかもしれない。高倉健の「ザ・ヤクザ」も入っていました。

三宅 台湾は国策として、日本のテレビ番組や映画を禁止しています。
桜井 韓国も絶対に入れません。日本は旧宗主国ですから。
三宅 台湾のテレビドラマには必ず残虐で野卑な日本兵が登場し、「バカヤロー」というところだけ日本語でなるんです。

内海 そういえばインドネシアに独立戦争の苦しい時代を若い世代に伝えるための「バンドン火の海事件」という映画があります。そこで登場する日本兵も丸坊主で背が低く、長い軍刀を差して、「バキヤロー」となるんです。
吉田 フィリピンでは「オイコラ」

日本の文学・芸術の受容

松井 日本の文学や芸術は？
吉田 そんなものを入れる努力を日本はしてるかしら。オーストラリアへ音楽が行ってもフィリピンは素通り、何か来ても宣伝もしないし。
桜井 日本文化というと文楽・歌舞伎というのもおかしいし、東南アジ

アには分からないからとSKD(松竹歌劇団)を送りこむのも、バカにしてるわけよ。
内海 インドネシアは日本語教育が盛んで、日本文化祭をやっています。花道・茶道・ひな人形・鯉のぼり・げたなど飾って。大使館から古い映画を借りたら「源氏物語」で、内容はよく理解できず画面だけを見て、みんな「ポルノ、ポルノ」と叫んでいた。
桜井 韓国には三島由紀夫や川端康成は入ってますが、大江健三郎は入れません。

山口 去年の夏、韓国へ行ったら、曾野綾子の小説の翻訳が書店に山積みになっていて、何か意図的なものを感じました。彼女はカトリック信者で、雑誌「カトリックグラフ」に連載していました。しかしこの雑誌が金芝河をとりあげたら、「金芝河は文学的に高く評価されていない、偏向だ」と抗議し、連載をやめました。その事件の後だったので、民主化闘争をしてる女性に話したら「KCIAの肝いりでしょう」と苦笑してました。
芥川賞受賞作品はすぐに翻訳され池田満寿夫の「エーゲ海に捧ぐ」や村上龍の「限りなく透明に近いブルー」も出ていて、獄中の人々を思っただけでなく、山岡荘八の「徳川家康」、三浦綾子や城山三郎も見かけました。李恢成や日野哲三(夫人が韓

国人)の作品も翻訳されています。雑誌は政治に無縁の無思想なものや保守的なものだけで「文春」「ミセス」などは見かけましたが、「世界」は輸入禁止。キリスト新聞も輸入禁止で秘密ルートで入ったのを読んだ韓国人キリスト者から匿名で激励の手紙が来ました。民主化闘争の記事を見たのでしよう。彼らは自分の国の教会の中の動きを知ることができず、日本の新聞・雑誌の情報を求めています。

ヤマハの進出と音楽文化

三宅 台湾でも三島、川端、安倍公房などの海賊版が出回っています。
内海 インドネシアにおける日本文学は欧米経由の英訳という構造です。
桜井 タイでは、日本の文化・芸術は知られていないですね。金芝河は翻訳され、学生の間に「韓国に学べ」という声が高かったようです。
ヤマハの進出と音楽文化
松井 音楽はどうですか。
吉田 フィリピンは、すっかり西洋化してしまっていますね。
桜井 タイは逆で、西洋クラシック音楽の伝統が全然なく、学校でも教えないし、ラジオも放送しない、オーケストラもないんです。
しかし最近ではヤマハの売込みが激しく、エレクトーン教室もあります。先日、ヤマハ音楽教室の生徒が工族の

前で御前演奏をしたんです。ピアノやエレクトーンは上流階級のステイタスシンボルだし、教室を開いて教えれば、金もうけにもなるんです。
三宅 台湾にはヤマハの工場があり、ヤマハ音楽教室も方々にあります。
桜井 タイでは西洋音楽の素地が全くないところへヤマハを売りこんでいるのだから、西洋音楽を開拓していることになるのかしら(笑)。

生活文化とニッポン

衣生活と日本の繊維産業

松井 この辺で、生活文化に話を移しましょうか。

桜井 タイでは下着はみんな原色で真赤なショーツや真黒なブラジャーショッキングピンクもあります。みんな化学繊維が好きで、木綿は安物として見向きもしない。暑い国だから木綿は吸湿性があっていいのに。化学繊維のことを「トール」って呼ぶんですよ(笑)。

それと、北部タイが寒波に襲われたとき、日本から古着を送ったことがあるんです。それ以来、彼らは洋服を着るようになった。善意のプレゼントだったのが、現地の人たちの服装を変えてしまったわけです。以前は一枚の木綿の布を腰に巻いたり、赤ん坊をくるんだり、昼寝のとき木の下に敷いたり、いろいろ使えて風

土に合った衣生活だった。外来の便利さの摂取と土着文化の破壊の二面があったんです。

吉田 フィリピンも昔はサロンを腰に巻くだけで上半身は裸でしたが、今はブラウスを着ます。おばあさんたちは今も胸を出していますが。昔は布地は貴重品で、アメリカから端切れを何トンも輸入して使っていました。今は帝人の工場がテフィリンとかいう化繊を生産しています。木綿の方が手に入りやすいんです。
桜井 化繊は暑くて着心地が悪く、安くないのに好かれるのはなぜかしら。

内海 染色がきれいだし、アイロン不要だからでしょう。汗をかいたので一日に何度も着替えなければならぬから。上流の人が民族衣装で正装するときはサロンにプリーツをたくさん入れるので、メイドはアイロンかけが大変なんです。
三宅 台湾では日本の衣服へのあこがれが強く、特に婦人服はスタイルやセンスがよいとされています。日本で買込んだものを五倍ぐらいの値で売る委託屋というものもあります。子ども服も評判がよく、日本のパーゲン品が高い値で売られています。

内海 インドネシアでも、日本語の先生が日本へ来た帰りに服を買い、高く売ったりしているようです。昔

は繊維の供給不足で、一人何メートルという配給制が続いていました。開発計画の中で日系企業が化繊を大量生産し、伝統的なサロンやパティックでなく、化繊に合わせた縫製産業が出てきて、若い人に受けています。
桜井 タイでは伝統的なサロンは手織りで、東北タイでは糸紡ぎからやります。タイシルクはカイコを飼うのから始めますし、洋服は日系の大工場で大量生産の化繊を使うので、自給自足の織物は駆逐されてしまう。

味の素と食生活

松井 食生活に対する日本の影響はどうですか。

桜井 タイの人は日本人を「アジノモト」って呼ぶんです(笑)。日本人と分かれると「日本語知ってる、アジノモト」なんて言います。

吉田 私もフィリピンの田舎でアジノモトと呼ばれましたね。同じところがみのもとも入り、味の素を頭にくらけたなんて笑話もあります。

内海 インドネシアには韓国の味元(ミウオン)も入っていて競争していました。味元も味の素のマークによく似たおわんのマークなんです。インドネシア人には見分けがつかないようでした。

三宅 台湾は味王とか味精です。
桜井 韓国ではもちろん味元です。

岩波新書

女性解放思想の歩み

水田珠枝著 子どもを産む女性の本来の社会性を確認する観点で歴史上の様々な女性観、女性解放思想を描出。二八〇円

妻は囚われているか

ギヤブロン/尾上孝子訳 家庭に縛られた母たちの矛盾―主婦を対象にインタビューし英国の婦人問題を論ず。二八〇円

結婚退職後の私たち

塩沢美代子著 製糸労働者のその後―線糸工であった主婦達に労働者としての体験がどう根づいていたか。二八〇円

あたりまえの女たち

フェルトン/阿部知二訳 世界の母親の記録―世界母親大会に集う各国婦人の身の上話をまとめたもの。二八〇円

部落の女医

小林 綾著 医者のない未解放部落に住みついた女医の十年間の歩みをまとめたヒューマンドキュメント。二八〇円

韓国からの通信

正統第三(全三冊)一九七二―一九七七年 T・K生/世界編纂部編 72年秋の戒厳令以後今日の韓国の政情を伝える記録であり、祖国の民主化を希う韓国知識人の苦悩と抵抗の聲。各二八〇円

東京千代田一ツ橋 振替東京〇〇〇三三三 岩波書店

韓国の友の戦いを支えよう!

東一紡織の女子労働者のためカンパを

韓国仁川(インチョン)の東一紡織に働く女子労働者たちが、今、自分たちの人間としての尊厳をかけた戦っています。この工場では女子労働者たちが、韓国で最初の女性の労組支部長を選出し、組合の御用化と戦って来ましたが、会社側は今年二月の代議員選挙に際し、暴力団を導入して組合員たちに人糞を浴びせ、これに抗議した二六人の組合員を逆に解雇してしまいました。うち二人は今も獄中にあります。

解雇された労働者たちは全国に氏名が通知され、再就職もできません。韓国の繊維労働者たちの血と汗の

結晶である糸や布は、日本にも輸出されて、私たちの生活の中に入りこ

まっています。「メイド・イン・コリア」のラベルをみる時、私たちの胸は痛まないでしょうか? 海峡を越えた隣国の働らく女性のことをあなたが考えていたら、同志としてカンパをお寄せください。

宛先は「アジアの女たちの会」
振替 東京〇一四六一四三
「女子労働者支援」と明記すること
カンパは韓国の対策委員会に寄託します

あなたもぜひ会員に!

「アジアの女たちの会」が発足して二年目を迎えました。会員は全国に五百人近くにふえます。アジアに、また女性解放に関心のある方は、どうか仲間として加わってください。会費年間二千円、申し込みは振替・東京〇一四六一四三アジアの女たちの会 機関誌バックナンバー残部あり。創刊号・韓国民主化闘争の女たち、第2号・買春観光を許すな、第3号・日本企業は海外で何を

78夏の合宿へ!

テーマ・「アジアと女性解放」
とき・8月26日(土)~28日(月)
ところ・山城館

中軽井沢駅下車(信越本線)
徒歩三十分

参加費 8千円(2泊3日)
定員 50名(会員に限る)

締切7月末 往復ハガキで五島まで涼しい自然の中でともに語りあいましよう。新しい出会いのために。

アジアの女たちの会 テーマ別グループ

各グループが資料集め、研究、調査、活動、あるいは価値観の変革などを目的とします。

- * 性侵略.....山口 明子
買春観光についての資料を集め、買春抗議集会を計画中
- * 経済侵略.....松井やより
繊維産業を中心に、日本の女工哀史から海外進出を追跡調査、月2回例会
- * 人権・政治犯.....加地永都子
韓国・台湾・東南アジア政治犯の資料収集
- * インドネシア.....内海 愛子
「デビ夫人自伝」を読む
- * 国籍法改正.....安江とも子
国際結婚の具体的ケースを集める
- * 資料収集.....富沢 由子
戦前のアジア主義の文献を収集検討
- * 解放の美学.....富山 妙子
第三世界と女性の目から見なおす芸術
- * 日本の女の闘いに学ぶグループ.....須田 幸子

ご希望のグループに参加ください。

しばられた手の祈り 幻燈作品 火種プロ製作



金芝河の詩を主題として
絵と音楽による
連帯のメッセージ

上映時間 40分 集会などでご利用ください。
★版価 スライド・テープ付 20,000円
★貸出し料 8,000円
制作スタッフ/原作・金芝河/訳・鄭敬謨/企画石版画・富山妙子/作曲・朴炯圭・林光/バイオリン黒沼ユリ子/ピアノ林光・高橋悠治/歌・鄭敬謨/詩朗誦・伊藤悠一/ナレーター林洋子/撮影・本橋成一・江西浩一/構成・土本典昭・小池征人・前田勝弘

〈火種プロダクション〉・〒171 東京都豊島区池袋3-1555富山方
〈ふいこの会〉上映の申込先・TEL9時~4時迄0422(44)5883 篠塚方

革命に向かうタイ

現代タイ民衆運動史
タイ情報センター訳
定価一五〇〇円

韓国労働運動史

金潤煥/中尾美知子訳
定価一八〇〇円

アジア特派員報告

ソウルの冬バンコクの夏

猪狩 章著
定価一三〇〇円

柘植書房

東京都千代田区神田神保町1-46-2
電話(03)291-0991 振替東京3-43287